

RIS2024 全国大会での報告内容（於 日本大学砦キャンパス 12月7日8日）

（概要）

第21回 RIS（全国学生保険学ゼミナール）全国大会において、石田ゼミナールの3つの班が参加し共同報告した。当日は、全国から保険・社会保険とリスクマネジメントを学ぶ15大学15ゼミナールが集い2日間のインターゼミナール活動を行った。参加者は、15ゼミナールの教員と大学生の約200名と金融・保険業界に属する実務家50名である。各班の持ち時間は1時間で、その中で報告に対する熱のこもった質疑応答と討論が実施された。参加した石田ゼミナールの学生たちは、約8か月をかけて準備した共同報告を通じて、また当日の討論を通じて保険ならびにリスクマネジメントに関する理解を深めることができた。各班の報告内容は以下の通りである。

1班：発表テーマ「地域企業の挑戦～SNS 炎上リスクマネジメント～」

発表学生：家城樹里、上居明里、倉田帆乃香、中村瑠希、福島勇輝、森田美桜、和仁友香

「地域企業の挑戦～SNS 炎上リスクマネジメント～」では、大学と商工会と保険会社の三者が連携して地域全体で SNS リスクマネジメントを行う新しいビジネスモデルを報告した。日本の企業の99.7%が中小企業でありその中でも、84.5%が従業員数20人以下（卸売業・サービス業・小売業に関しては5人以下）の小規模事業者にあたる。こうした企業は、大企業とは異なり小さな SNS の炎上リスクが致命傷になりかない。SNS を使うことで中小企業の再生が図れる一方で、ノウハウがなく、リスクを恐れて積極的に活用できていない企業も多い。そこで、大学が中心となり SNS や DX を切り口として、地域連携を高めることで包括的にリスクをマネジメントすることを検討した。具体的には、大学と保険会社が提携した SNS サービスの提供であり、既存の SNS 運用代行サービスを参考に、保険会社と大学だからこそできるサービスを提案した。

2班：発表テーマ「資産形成戦略～地域と中小企業の共助～」

発表学生：伊藤和暉、喜井愛梨、古家誠也、小原早耶香、伊達樹里杏、田中彩乃、長岡由徒
山谷知幹

「資産形成戦略～地域と中小企業の共助～」では、日本の個人資産形成は「預金主義」が主流であったが、超低金利時代においては預金だけでは資産形成に限界が生じている。現状では多くの家計資産が預金に偏り、インフレーションによる資産価値の目減りが懸念されている。また、少子高齢化に伴い、年金制度や退職金制度が財政面で圧迫を受けており、将来

的な持続性にも課題がある。このような状況下、個人が自助努力によって資産形成を進める必要性がますます高まっている。大企業とは異なり、中小企業の従業員の資産形成機会は限られている。そこで、中小企業における資産形成を支援する新制度を提案し、企業と従業員の双方に利益をもたらす「WIN-WIN」の仕組みを通じて、日本経済の活性化と日本人の自助資産形成への意識改革を目指すことを目的とした。

3 班：発表テーマ「ペイシェントハラスメント相談室～医療現場におけるリスクマネジメント～」

発表学生：鎌田ほの香、上月耀天、塩田優菜、島田樹、日野結人、箕浦朱莉、山川華鈴、
吉田桜子

「ペイシェントハラスメント相談室～医療現場におけるリスクマネジメント～」では、職場や学校、家庭内、そしてインターネットなどあらゆるところで生じているハラスメントをテーマとして取り上げた。近年そのようなハラスメントの中でも特に、顧客が従業員に対してハラスメントを行うカスタマーハラスメント（カスハラ）が増加傾向にあり、大きな問題として注目されている。研究対象として、カスタマーハラスメントが最も発生しやすく、被害が深刻な医療現場に絞り考察を行った。

医療現場におけるカスタマーハラスメントはペイシェントハラスメント（ペイハラ）と呼称されており、患者（顧客）から医療従事者（従業員）へのハラスメントのことを指す。とくに、「過労死防止対策白書」によるとペイハラによる看護師の被害は甚大であり、身体的受傷、精神不調、休職、離職、などの様々な被害が発生している。そこで、こうしたペイハラによる被害を減少させるために、金融 ADR と民事調停を参考にした「ペイシェントハラスメント相談室」を提案した。そこでは、ペイハラの被害を受けた医療従事者が、ペイハラを行った加害者と、その当事者間の架け橋となる公正中立な仲介人の三者で話し合いを行い、ペイハラの解決を目的とする制度である。本制度の有効性として、迅速性や簡易性があり、解決率が高いことを実態的に解明した。

以上